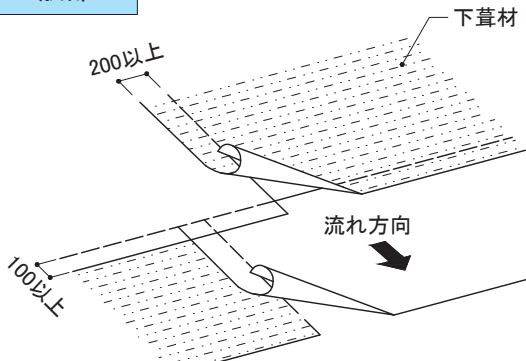
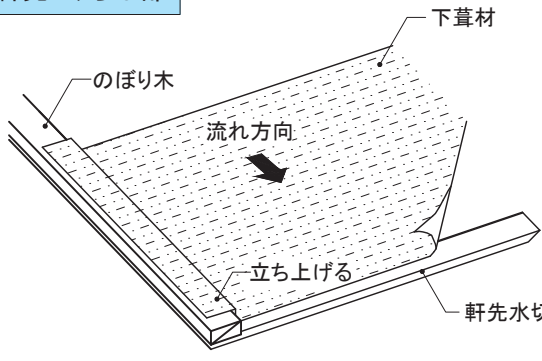
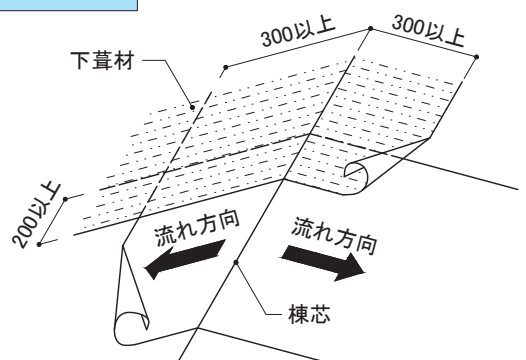
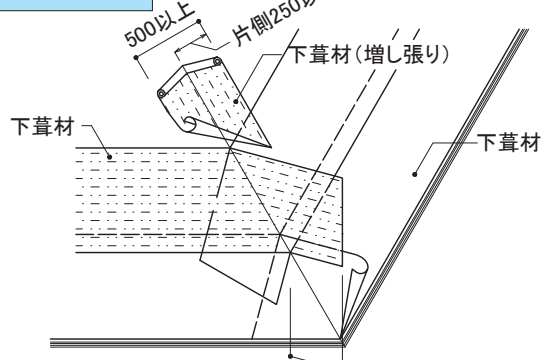
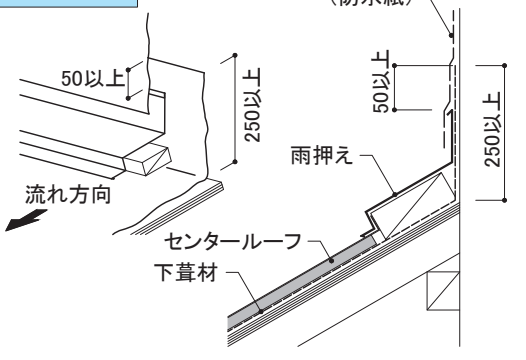
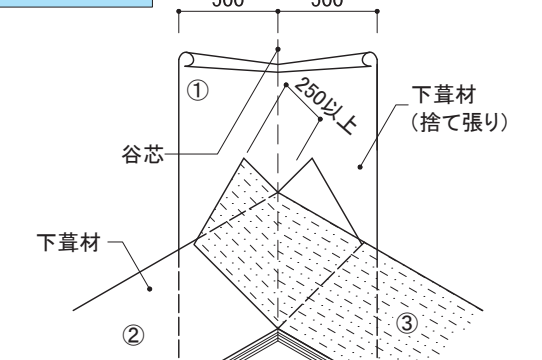


9 センタールーフ標準施工法

9-8 下葺材の施工（一般施工仕様）

- 下葺材はP211表より、アスファルトルーフィング940（JIS A 6005）または改質アスファルトルーフィングを使用します。
- 棟換気部材などを設置する場合は、各換気部材メーカーの設置仕様に従ってください。
- 下葺材の施工後、垂木の位置が分かるように墨出しを行ってください。

<p>一般部</p>  <p>●重ねしろは上下100mm以上、左右200mm以上とします。</p>	<p>軒先・けらば部</p>  <p>●軒先部は、軒先水切の半分程度まで下葺材をかぶせます。 ●ケラバ部はのぼり木を設置し、下葺材を立ち上げます。役物に応じて納めます。</p>
<p>大棟部</p>  <p>●大棟部は、片側300mm以上（計600mm以上）重ねます。</p>	<p>隅棟部</p>  <p>●隅棟部は、隅棟芯より200mm以上下葺材を敷き延ばして施工した後、幅500mm以上の下葺材を隅棟芯に沿って増し張りします。</p>
<p>壁際部</p>  <p>●壁際は、250mm以上（雨押え金物の上端より50mm以上）立ち上げます。</p>	<p>谷部</p>  <p>●谷部は、 ①谷芯を中心に片側500mm以上下葺材を捨て張りし、 ②、③は、両側から谷芯より250mm以上敷き延ばします。 （図中の○数字は、施工の順番を表しています。）</p>